

imoto Jナース通信

2018年2月
第4号

地元医療福祉の担い手「地元ナース」養成に向けた 大学学士課程における教育開発



「山形発・地元ナース養成プログラム」では、「地元ナース」として働く看護職に対するリカレント教育や人事交流による大学での研修の他、学士課程（学部）の学生に対して、「地元ナース」を意識した教育に力を入れています。今回は、この学士課程教育について紹介します。

「地元ナース」には、医療資源や公共交通機関が乏しい地域の小規模病院等で、多様な健康問題を抱える地域住民と密な関係を構築しながら、地域の社会資源を活用し、チーム体制をマネジメントする能力が求められます。学部の卒業時点でこのような能力を獲得することはかなり困難です。学士課程では、「地元ナース」が地元住民から大きな期待を寄せられ、住民の健康に重要な役割を果たしていることを理解し、将来「地元ナース」として活躍したいという意欲をもつことを目指しています。

講義では、1年生で「地元論」、2年生で「ジェネラリズム看護論」「相互理解連携論」を履修します。「地元論」は、“地元”、そして“地元”で生活することの意味を理解できることを目標としています。「ジェネラリズム看護論」は、総合的にものを考える能力である“ジェネラリズム”を理解し、地域で暮らす様々な人々の健康と生活を守るための「地元ナース」の役割を考えることを目標としています。「相互理解連携論」は、多種の専門職や地域住民が互いに理解し合い、協働連携するために何が必要かを考えることを目標としています。どの科目も、学生が「地元ナース」に関心を持ち、役割を考えられるよう、現在活躍している実践家からの講義や、学生同士の討議を中心としています。

4年生の実習では、小規模病院等での看護実践活動をとおり、「地元ナース」の役割を理解し、「地元ナース」が果たすべき役割を考察することを目標としています。実習施設が大学から遠いので、指導にはICTを活用しています。

これまでの成果から、学士課程教育に「地元ナース」を位置付けることの手ごたえを実感しています。「地元ナース」に必要な能力は、前述の3科目や短期間の実習だけで獲得できるわけではありません。

これらの科目を機会に、視野を広げてほしいと思っています。また、現在は、「地元ナース」について学習するのは選択する学生のみとなっていますので、今後、履修学生を拡大する取り組みを行っていきたく考えています。

学士課程教育担当 遠藤 恵子

目指す人材像

- 地元医療福祉の重要性を認識し、貢献する気概を持った人材
- 地元の強みと弱みを包括的に捉え、多職種と連携して住民力を生かした看護実践ができる人材
- 地元ナースの活動結果を全国的・国際的に発信する基礎的能力を持った人材
- 協調性と変革力の均衡の重要性を理解し、そのための努力ができる人材



～地元ナース新設科目の紹介～

新設科目は、学部学生への教育である学士課程教育に新たに開設された科目です。開学以来積み重ねてきたチーム医療教育の実績を活かし、新しい発想で「地元ナース」養成の教育開発に取り組んでいます。地元で就業する価値を理解した学生の育成を目指しています。

【地元論】（1年次）

○ “地元”の概要を理解し、学生個々人の“地元”に対する理解と愛着を深める。

- ・ “地元”を考えるうえでの概要と背景が理解できる。
- ・ 自分の“地元”に関心を持ち、概観することができる。
- ・ 自分自身や看護の対象である住民が、自分の“地元”を選び、“地元”で生活していくことの重要性が理解できる。

◇授業の実際

- ・ グループワークや発表を通し、自分の“地元”の理解を深め、他人の“地元”も知る。
- ・ “地元”で働くことの意義を卒業生等に語ってもらい、学生との意見交換をする。



地元論：講義の様子

【ジェネラリズム看護論】（2年次）

○地域の保健医療水準の向上に貢献できる「地元ナース」としての活動の基盤形成につながるように、人々の多様な健康問題及び看護へのニーズの現状を概観し、地方の小規模病院・診療所、高齢者施設等の場において、求められる看護について探求する。

- ・ 「ジェネラリズム」とはどのようなことが理解できる。
- ・ 地方に暮らす人々の健康問題と生活をみる視点について理解できる。
- ・ ジェネラリストとしての看護が期待される場とニーズについて理解できる。
- ・ 外来や地方の小規模病院や診療所で求められるジェネラリストとしての看護活動の実際について知る。
- ・ 地元住民が頼りにする看護師像について探求することができる。

◇授業の実際

- ・ 専門性をもつナース、ジェネラリストナース、看護管理者から、看護活動の実際をうかがい、住民が頼りにする看護師像とは何かを考える。



ジェネラリズム看護論：
現場の看護職の方々とのディスカッションの様子

【相互理解連携論】（2年次）

○「相互理解」を中心に、個人、集団、地域等の「連携」の基礎や実際について、保健医療福祉分野以外も含めて広く学習する。近年の保健医療福祉の分野で推進される「多職種連携協働（チーム医療）」に広く対応できるような能力、技術、考え方について学ぶ。

- ・ 相互理解とは何かを理解する。
- ・ 保健医療福祉以外も含め、互いに理解しあい円滑に結び合うことの重要性を理解する。
- ・ 相互理解を深め連携するために何が必要か考察できる。

◇授業の実際

- ・ 演習を主体とした授業で、相互理解を深めるために必要なことや、コミュニケーション・スキルを学ぶ。



相互理解連携論：演習の様子

地元で活躍する看護師



「その人らしさを支える地元の力」

町立真室川病院 総看護師長 井上典子

平成28年度よりこの「山形発・地元ナース養成プログラム事業」に参加しております。看護師の継続的なスキルアップ支援には、組織的な関わりが重要であると認識しています。今回、小規模病院の看護師にスポットをあてた画期的なプログラムとして、学ぶ機会を得たこと、また支援していただくことになり大学と講師の先生方に感謝申し上げます。

当病院は地域医療構想において、地域医療を支える役割を果たすということで新たな体制を模索しております。私たちは、住み慣れた地域での療養生活を支えるため、多職種との連携を密に患者・家族に寄り添った看護の提供を目指しています。地域に必要とされる病院として、専門職としての自覚と常に学ぶ姿勢を持ち続けることも目標として掲げております。

私は幼い頃に心臓手術を受け、退院後も小学低学年まで仙台の病院に通院していました。私の中で看護婦さんの働く姿は、記憶の中で光る特別な存在として強く印象に残っています。高校3年の進路を決める過程で看護師を選択しました。幼少期の特別な思いが潜在的に根付いていたからの、必然的な選択となったことを強く感じます。高校を卒業し、神奈川県国立横須賀病院付属看護学校に入学、寮生活を体験し、多くの看護師を目指す仲間とよき先輩に恵まれ充実した学校生活でした。卒業後は同病院の循環器内科に配属され25歳のときに真室川町に戻ってきました。地元のあったかい先輩の指導のもと、町民の皆様を知ることから教えていただきました。



町立真室川病院は、今年8月、院内に訪問看護ステーションのサテライト(山形県看護協会協力)を開所しています。在宅に視点を向けた退院支援・調整に毎日忙しくしておりますが、自分たちがその人らしくを支えるという、みんなの思いが頑張る原動力になっています。地元ではみんなの温度を感じながら仕事ができていることも魅力の一つです。職員総数は63名、うち看護師36名、病床は55床です。“チームワーク良ければミスもなし”が合言葉となっており、WLB(ワークライフバランス)の取り組みに現在奮闘中です。



看護大学生の皆さんは、大きな希望と目標を持って専門職としての学びを深めていることと思います。看護職は人と人とのつながりを大切にしながら、人に関わるやりがいのある仕事です。大学での多くの出逢い、人との関わりを大切に、今はまだ自分の着地点を探している状況と思いますが、多様な力を発揮できる人材として、自分の目標を実現するための努力を惜しまず頑張ってください。

協力施設の皆さんが一堂に会して

～第3回事業報告会を開催しました～

平成29年12月6日に、第3回事業報告会を開催しました。この会は、協力施設の看護管理者や事業に参加された看護師の方々にお集まりいただき、事業担当者が当該年度の事業の実施状況を報告するとともに、今後の事業展開について意見交換を行うものです。平成27年度より開始し、本年度で第3回目の開催になりました。

事業の取り組みについて、大学の担当者より実施報告を行った後、実際に参加してみての感想や意見などいただきました。また、看護管理者の方々より、参加された看護師の方々の成長



振りや、病院でのプログラムの活用等についてお話があり、本事業が小規模病院等の看護実践力の向上に役立っている様子がうかがうことが出来ました。

これから開催を検討している研修会についても、実施内容に関して貴重な意見をいただき、有意義な意見交換の場になりました。

○新たに協力病院が増えました!

山形県立こころの医療センター（鶴岡市）が、協力病院に加わりました。

これまで庄内地域には協力病院が1施設（遊佐町）だけでしたが、これで庄内地域が2施設となり、協力施設が県内合わせて8自治体9カ所になりました。

今後も多くの医療関係者の皆様の本事業へのご理解や関心が一層高まるよう、広報活動を活発に行っていきたいと考えております。

協力病院について、ご興味をお持ちの看護管理者の方がいらっしゃいましたら、お気軽に看護実践研究センターまでお問い合わせください。お電話、メール、FAX等、いずれでも構いません。お待ちしております。



● 編集後記 ●

今年は平成30年。新たな年号へと変わる、新しい時代の幕開けが、そこまで来ています。地元ナース養成プログラムも最終年度を迎え、新たな時代へつなぐ準備の年になります。今年もご支援のほどよろしくお願いいたします。

編集・発行



山形県立保健医療大学
看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳260番地
TEL/FAX 023-686-6614
<http://jimoto-nurse.jp/>
info@jimoto-nurse.jp